令和4年度入学　編入学（一般）試験問題の出典

社会福祉学部

種別	大問番号	著者名	著作物名	書名等	版元
総合問題	1	中村　桃子	翻訳がつくる日本語 ――ヒロインは「女ことば」を話し続ける	白澤社，2013年，pp.62-69より，一部改変	白澤社
	2	Edward T. Hall edited with notes by Yoshimi Nagai	The sounds of silence	Nan'un-Do（南雲堂）1976年，pp.10-12より，一部改変	Nan'un-Do（南雲堂）
	3	松田　純	安楽死・尊厳死の現在	中央公論新社，2018年，pp. 221-227より，一部改変	中央公論新社

令和４年度　編入学（一般）

社会福祉学部

総　合　問　題（120分）

注　意　事　項

1　**試験開始の合図があるまで，この問題冊子の中を見てはいけません。**
2　この冊子は，８ページあります。なお，下書き用紙が２枚あります。
3　試験中に問題冊子及び解答用紙の印刷不鮮明，ページの脱落などがあった場合は，手を挙げて試験監督者に知らせなさい。
4　解答は，必ず**黒鉛筆**（シャープペンシルも可）で記入し，ボールペンや万年筆などを使用してはいけません。
5　**解答用紙には，氏名及び受験票と同じ受験番号を忘れずに記入しなさい。**
6　**解答は，必ず解答用紙の指定された箇所に記入しなさい。**
7　下書きの必要があれば，下書き用紙を利用してかまいません。
8　試験終了後，問題冊子と下書き用紙は持ち帰りなさい。

令和４年度　編入学　社会福祉学部

問　題　訂　正

○訂正内容

教科名　　総合問題

頁・問題番号・行　　５ページ　（注）の５つ目

誤）

distance

正）

discourse

1 次の文章を読み，あとの問いに答えなさい。（配点 70 点）

ことばとアイデンティティはどのように関係しているのだろうか。その関係は，大きく本質主義と構築主義に分けて理解することができる。

これまで，ことばとアイデンティティの関係は，話し手にはあらかじめ特定の特徴が(ア)備わっていて，話し手は，その特徴に基づいて特定の話し方をすると理解されていた。このように，アイデンティティをその人にあらかじめ備わっている属性のように捉えて，人はそれぞれの属性に基づいてことばを使うという考え方を「本質主義」と呼ぶ。

たとえば，アイデンティティのうちでジェンダー（女らしさや男らしさ）に関わる側面を本質主義に基づいて表現すると，ある人は，（女らしさ／男らしさ）というジェンダーを「持っている」，あるいは，＜女／男＞というジェンダーに「属している」と理解される。話し手は，各々が持っている女らしさ／男らしさを表現するために，あるいは，各々が属しているジェンダーに基づいてことばを使うと考えられていた。

しかし，(1)このような考え方では説明のつかないことがたくさん出てきてしまった。もっとも大きな問題は，人は誰でもそれぞれの状況に応じてことばを使い分けているということである。私たちが実際の場面で使っている言葉づかいは，さまざまな要因によって多様に変化している。同じ人でも，家庭での言葉づかいと職場での言葉づかいは異なる。同じ職場でも，話す相手や，場所，目的によっても異なる。また，同じ人でも子どものときと大人になってからでは言葉づかいが変わる。同じ＜男＞という属性を持っている人の中でも，その言葉づかいは互いに異なる。それだけではない。男も「女ことば」を使う場合もあるし，女も「男ことば」を使う場合がある。

私たちが，あらかじめ持っているアイデンティティに基づいて特定の話し方をすると考えると，このようにことばをさまざまに使い分けていることを説明することができない。

そこで提案されたのが，アイデンティティを言語行為の原因ではなく結果ととらえる考え方である。このように，アイデンティティを，言語行為を通して私たちが作りつづけるものだとみなす考え方を「構築主義」と呼ぶ。私たちは，あらかじめ備わっている＜日本人・男・中年＞という属性に基づいてことばを選択するのではなく，特定の言葉づかいをする行為によって自分のアイデンティティを作り上げていると考える。「私は日本人だから」「男として恥ずかしい」「もう中年だなあ」などと言う行為が，その人をその時＜日本人＞＜男＞＜中年＞として表現する。言葉づかいで言えば，「おれも，もう中年だなあ」のように，男性人称詞の「おれ」を使って「中年だ」と言う行為が，日本人中年男性のアイデンティティを表現すると考えるのである。

（中　略）

以前ならば「年齢」によって上下関係が決まっていたので，年少者は年長者に敬語を使う，つまり，あらかじめ決まっている関係に基づいてことばを選ぶ，という考え方が成立した。しかし，(2)年齢だけで上下関係が決まらない現代社会では，個々の場面で人間関係を調整するため，人々はことばによって関係を構築しているのである。その結果，自分がどのような人間なのか，つまり，自分のアイデンティティも個々の場面で変化する。このようなプロセスを説明するには，「ことばを使うことでアイデンティティを作り上げる」という構築主義が必要になるのである。

ことばを使うことで人間関係を調整しアイデンティティを作り上げるという現代社会の特徴は，ことばによって，以前よりも民主的な人間関係を築こうとする動きも引き起こしている。たとえば，自分の子どもに「お母さん，お父さん」

や「ママ，パパ」ではなく，「桃子」のように自分の名前で呼ばせる親が新聞で取り上げられていた。これらの親がその理由として挙げているのは，「子どもと対等な関係でいたい」である。中には，自分自身が親との上下関係で苦しんだため，自分の子どもにはそのような思いをさせたくないという人もいる。この親たちが，子どもとの新しい関係をつくる方法として選んだのも，「ことば」である。ことばによって親としての自分のアイデンティティも新しく作り上げられると考えているのである。

同じように，これまで上下関係が固定的だった職場でも，お互いを「OOさん」で呼ぼうという会社が現れた。新しい技術や市場の出現に対応するためには，年長者がその業界で(イ)培った経験だけでなく，若い人の意見も取り入れることが必要になった。しかし，従来のように「社長」，「部長」と呼び合っていたのでは，若い社員が自由に意見を述べられる関係は築きにくい。そこで取り入れられたのも，「ことば」である。ここでも，ことばによって職場の人間関係が変化することが前提になっており，このような現象を説明するためには，あらかじめある属性に基づいてことばを使うという「本質主義」ではなく，ことばを使うことで人間関係やアイデンティティを作り上げるという「構築主義」が必要になる。

さらに，現代の若者がことばを使って自分のアイデンティティを(ウ)微妙に調整していることは，方言の使用にも観察される。田中ゆかりは，現代の若者がメールなどに自分の生育地と無関係な方言の語尾などを挿入する現象に注目し，これを「方言コスプレ」と呼んでいる。方言コスプレとは，たとえば，関東の出身者がメールの最後に「〜どすえ」とつけるように，自分の［　A　］方言を，［　B　］に［　C　］とかかわりのない間柄や場で使うことを指す。これも，その方言に(エ)付随したイメージを使って，その時々に相手との関係や自分のアイデンティティを調整していると考えられる。

作家の平野啓一郎は，『私とは何か―「個人」から「分人」へ』で，現代社会における私たちの生きづらさを解決する一つの方法として「分人」という考え方を提案している。学校でいじめられて苦しんでいる人でも，学校での「自分」と家族に温かく支えられている「自分」を分けて考えることで，救われるかもしれない。平野は言葉づかいには触れていないが，現代では，「自分は一つだ」という考え方を変えることが必要な場面は少なくない。

このように，人間関係が固定的だとみなされていた時には見えにくかった，ことばがアイデンティティをつくりだす働きが，人間関係が流動的になった現代社会では，広く意識されるようになったのである。

（中村桃子『翻訳がつくる日本語―ヒロインは「女ことば」を話し続ける』，白澤社，2013年，pp.62-69より，一部改変）

問１　下線部（ア）～（エ）の漢字をひらがなに直しなさい。

問２　下線部（１）「このような考え方では説明のつかないことがたくさん出てきてしまった」とあるが，「このような考え方」とはどのようなものかを明らかにした上で，それがうまくいかない理由を，本文に即して，100字以上120字以内で説明しなさい。

問３　下線部（２）「年齢だけで上下関係が決まらない現代社会」を象徴する取り組みの具体例を本文から２つ取り上げ，それが人間関係をどう変える可能性があるかを110字以上130字以内で説明しなさい。

問４　[A]～[C]に入る最も適切な語句を下からそれぞれ１つ選び，記号で答えなさい。

・[A]

ア　土着言語である　　イ　慣れ親しんだ　　ウ　生育方言ではない

・[B]

ア　単発的　　イ　永続的　　ウ　共感的

・[C]

ア　外見　　イ　利害　　ウ　地元

2 次の英文を読み，あとの問いに答えなさい。（配点 60 点）

Most white middle-class Americans use four main distances in their business and social relations: intimate, personal, social and public. Each of these distances has a near and a far phase and is (ア). Intimate distance varies from direct physical contact with another person to a distance of six to ①eighteen inches and is used for our most private activities. At this distance, you are overwhelmed by sensory inputs from the other person — heat from the body, tactile stimulation from the skin, the fragrance of perfume, even the sound of breathing — all of which literally envelop you. In general, the use of intimate distance in public between adults is frowned on. It's also much too close for strangers, except under conditions of extreme crowding.

In the second zone — personal distance — the close phase is one and a half to two and a half feet; it's at this distance that wives usually stand from their husbands in public. If another woman moves into this zone, the wife will most likely be (イ). The far phase — two and a half to four feet — is the distance used to "keep someone at arm's length" and is the most common spacing used by people in conversation.

The third zone — social distance — is employed during business transactions or exchanges with a clerk or repairman. People who work together tend to use close social distance — four to seven feet. This is also the distance for conversations at social gatherings. To stand at this distance from someone who is (ウ) has a (エ) effect (e.g., teacher to pupils, boss to secretary). The far phase of the third zone — seven to twelve feet — is where people stand when someone says, "Stand back (オ) I can look at you." This distance lends a formal tone to business or social discourse. In an executive office, the desk serves to keep people at this distance.

The fourth zone — public distance — is used by teachers in classrooms or speakers at public gatherings. At its farthest phase — 25 feet and beyond — it is used for important public figures. ②Violations of this distance can lead to serious complications. During his 1970 U.S. visit, the president of France, Georges Pompidou, was harassed by pickets in Chicago, who were permitted to get within touching distance. Since pickets in France are kept behind barricades a block or more away, ③the president was outraged by this insult to his person, and President Nixon was obliged to communicate his concern as well as offer his personal apologies.

（Edward T. Hall, "*The sounds of silence*", edited with notes by Yoshimi Nagai, Nan'un-Do, 1976, pp.10-12 より，一部改変）

（注）　sensory　感覚的な　　tactile　触覚の　　frown 顔をしかめる
transaction　業務　　distance　言説，談話　　picket 哨兵

問１　以下の語句を並べ替えて，文中の空欄（　ア　）に入る，最も適切な英語の表現を作りなさい。

accompanied / by / changes / in / of / the voice / the volume

問２　下線部①と同じ長さを示す表現を本文から探し，英語で書きなさい。

問３　以下の英文が挿入される最も適切な本文中の位置を探し，その直前の３語を抜き出し，英語で書きなさい。

Even at the far phase, you're still within easy touching distance.

問４　空欄（　イ　）（　ウ　）（　エ　）に入る語の組み合わせとして最も適切なものを，以下の１～４の中から選び，番号で答えなさい。

１．（イ）disturbing　　（ウ）seated　　（エ）dominated
２．（イ）disturbed　　（ウ）seating　　（エ）dominating
３．（イ）disturbing　　（ウ）seating　　（エ）dominated
４．（イ）disturbed　　（ウ）seated　　（エ）dominating

問５　空欄（　オ　）に入る最も適切な語を以下から選び，英語で書きなさい。

before　　if　　so　　when

問６　下線部②を日本語に訳しなさい。

問７　下線部③について，その理由を本文の記述に基づき日本語で書きなさい。

3 次の文章を読み，あとの問いに答えなさい。（配点 70 点）

オランダの女性医師マフトルド・ヒューバーらの国際的な研究グループは，「高齢化や疾病傾向が変化している現代で WHO の定義は望ましくない結果を生む可能性すらある」として，新たな健康概念の開拓に取り組んできた。

彼女らは「健康は状態なのだろうか，能力なのだろうか―健康の動的コンセプト」という国際学会を開催し，その成果を 2011 年に，「われわれはどのように健康を定義すべきか？」という論文として『BMJ』（英国医学雑誌）に発表した。そのなかで，社会的・身体的・感情的問題に直面したときに，困難な状況に適応し，対処する能力という新しい健康概念を提起している。

健康を「完全に良好な状態」という静止状態としてとらえるのではない。疾患によってさまざまな問題を抱えていても，それに対処し乗り越えていく「立ち直り，復元力」としてとらえている。つまり，疾患があっても，さまざまな薬や (ア) ホソウ具や機器，医療や介護の力などを支えにして，症状を和らげ（緩和），気落ちすることなく人生を前向きに歩いて行けること，その力こそを「健康」としてとらえているのだ。

このように「適応力」として動的にとらえられたヒューバーらの健康の概念は，慢性疾患や難病，高齢者のケア，緩和ケア，人生の最終段階の医療などのとらえ直しを迫り，医療そのものの観念を変える力がある。

健康を「完全に良好な状態」とした場合，医療の使命は，病気を治し健康を回復させることとなる。このとらえ方は当たり前のことのようであるが，医療でも治らない病気は山のようにある。それどころか，私たちは誰もが致死率 100％の病気で命を終える。

「完全に良好な状態」が「健康」であり，ここに復帰させるのが医療の使命だとすれば，患者が (イ) チユ困難となったとき，その医療は「無益」ととらえられる。「延命治療」は「医学的に無益」で「患者にとって害のある (ウ) カジョウ治療」だから治療を中止し，「尊厳死」へ導いた方がよいということがしばしば唱えられる。さらに，「いっそひと思いに安楽死を」という話にもなる。治せないなら「無益な医療」。(1) こういうとらえ方では日々の医療や介護，ケアの意味づけができない。

だが，実際は，医療は患者の主疾患を治すだけではない。主疾患は (イ) チユしないが，症状を和らげ症状の悪化を防ぐ措置もある。薬のなかにも，(イ) チユの効果を持つ薬だけではなく，疾患そのものを治すことはできないが一生飲み続けて症状をコントロールし，発症や重症化を防ぐ薬もたくさんある。(イ) チユは困難だが症状を和らげることに対して，医療は現に大きな力を発揮している。それも医療の重要な使命であることはいまさら言うまでもない。

（中　略）

緩和は「和らげること」である。病苦を和らげることはすべて緩和である。それはどんな疾患でも，いつの時期でも必要なことである。「医療は病気を治すもの」という観念は依然として根強い。しかし，こうした一面的なとらえ方では，病苦を和らげる営みは正当に評価されない。医療は病気を治し健康を回復することをめざすが，たとえ (イ) チユしなくても，可能なかぎり病苦を和らげることに取り組

む。このように，苦境に対する「適応力」としての健康を支える医療というとらえ方を明確にする必要がある。

例えば，日本医師会の『医の倫理綱領』は，「医学および医療は，病める人の治療はもとより，人びとの健康の維持もしくは増進を図るもの」とされ，緩和は位置づけられていない。

これに対して，ドイツの医師会の「ドイツ医師のための職業規則（雛型）」（2015年）は，「医師の使命は，生命を維持し，健康を守り回復させ，苦痛を和らげ，死にゆく人を支え，人類の健康に対する重要性という観点から自然の生命基盤の保持に (エ) コウケンすることにある」と定め，緩和を医師の使命に位置づけている。イタリア医師会全国連盟「医師職業義務規程」（2014年改訂版）も同様である。

また，日本看護協会の『看護者の倫理綱領』は，「看護は，あらゆる年代の個人，家族，集団，地域社会を対象とし，健康の保持増進，疾病の予防，健康の回復，苦痛の緩和を行い，生涯を通してその最期まで，その人らしく生を全うできるように援助を行うことを目的」とするとし，「苦痛の緩和」を明確に位置づけている。日本医師会も『医の倫理綱領』を改訂して，緩和も医師の使命であることを明確にした方がよいであろう。

生命倫理学では「蘇生や救命の技術など現代医療の発展が，人生の最終段階の医療をめぐって (2) 悩ましい倫理問題をもたらした」という言い方がよくされる。一昔であればとうに命を落としていた患者が救命措置によって一命をとりとめることができた。けれども，その後の生のあり方はどうなのかという問題が提起された。このようなことは，医療技術の発展によってもたらされた問題であるという言い方がよくされる。たしかに，その通りである。しかし，もう一面もある。医療の発展がまだ不十分な段階であるからこそ，もたらされている問題でもあるともいえる。

例えば，重い神経・筋難病を抱えている人は，コミュニケーションに困難がある。ところが近年，新たな意思伝達装置か開発されてきて，全身の筋肉が動かなくてもパソコンでメッセージを伝えることができるようになった。

（中　略）

医療・医学は病気を治し「完全に良好な状態」を取り戻すという医療観からは，そもそもこのような機器の開発の動機は生じてこない。「完全に良好な状態」などはそもそも存在せず，苦境に対して適応し，やりくりしていく力としての健康を支えるのが医療，そのための医学研究という考え方から，こうした画期的な機器が開発されてくるのである。

もはや誰ともコミュニケーションが取れない状態に閉じ込められるという前提で，それは耐えがたい苦しみだという思いから「尊厳死」や「安楽死」を希望したとしよう。これは1つの倫理問題であるが，先ほどのコミュニケーション技術によって (3) この倫理問題の前提が崩れたことになる。

（松田純『安楽死・尊厳死の現在』，中央公論新社，2018年，pp.221-227より，一部改変）

問１　下線部（ア）～（エ）のカタカナを漢字に直しなさい

問２　下線部（1）「こういうとらえ方では日々の医療や介護，ケアの意味づけができない」理由について，著者はどのように考えているか，70字以上100字以内で説明しなさい。

問３　下線部（2）「悩ましい倫理問題」を背景として議論されるようになった医療上の行為を表す2字以上4字以内の言葉を2つ本文から抜き出して，答えなさい。

問４　下線部（3）「この倫理問題の前提が崩れた」経緯について，本文を踏まえて，150字以上200字以内で説明しなさい。